

勝山市石碑調査報告書

続 勝山市の石碑



二〇一七

勝山市教育委員会

刊行にあたって

石碑は、石に文字を刻むことで永く残すことを目的に建てられたものですが、時間の経過による風化や社会情勢の変化により、建てられた目的や内容もわからなくなりつつあります。

勝山市内におきましても数多くの石碑が残されていますが、その多くは忘れ去られた存在になりつつあります。そこで、勝山市では市内全域を対象に各地区に点在する石碑を尋ねて碑文等を調査し、その結果を平成二十五年度に勝山市石碑調査報告書『勝山の石碑』として刊行しました。

しかしながら、前回の勝山市の石碑調査報告書では、紙面の関係から掲載できない部分がありました。そこで、今回、新たな発見も含めて続編として刊行することになりました。

今回の報告書では、前回十分紹介できなかった「学校関係の碑」「まちづくり・文化財関係碑」について、写真と解説を加えました。また、前回の報告書を見られた市民の方から「ここにもある」といった声が寄せられ、新たに発見された石碑も五十六基追加しております。前回の報告書とあわせると六〇三基の石碑を収録することになります。

本書の内容の大半は「学校関係の碑」が占めますが、これまでの学校の変遷、卒業生や地域の方々の学校に対する思い、地域の象徴といったイメージが感じとれます。

「まちづくり・文化財関係碑」については、勝山市が計画してきたエコミュージアム構想に基づき各地区の名所・旧跡などを紹介した石碑と、勝山市の指定文化財を説明した石碑を紹介しており、地域のなりたちや特徴を考える上で重要な資料と言えます。

最後になりましたが、調査に多大なるご協力をいただきました市民の皆さま、ご助言をいただきました勝山市史編さん審議会の委員の方々をはじめ、多くの関係機関、また関係者の皆様方に対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

平成二十九年十月

目次

はじめに	1
4章 まちづくり・文化財関係碑	2
1節 平泉寺町まちづくり碑	2
2節 エコ関係碑	5
3節 文化財関係碑	8
5章 学校関係の碑	10
1節 平泉寺地区	12
2節 猪野瀬地区	13
3節 勝山地区	14
4節 村岡地区	30
5節 野向地区	32
6節 北谷地区	34
7節 荒土地区	36
8節 北郷地区	42
9節 鹿谷地区	43
10節 遅羽地区	44
6章 新規追加碑	45
石碑の位置図・学校写真	57

凡例

- 一 碑は勝山市内に建てられているものを対象としたが、市外のものでも市に関係すると思われるものは今回は掲載した。
- 一 人物碑のなかにはあくまでも伝承として、例えば明智光秀碑などとして伝えられているものがある。これらも同じく解説で補足した。
- 一 碑文は縦書きや横書き、両者の入り混じったものなど多様である。しかし一部を除き原則として縦書きで記した。碑文の長さにも長短があるが、これについても原文通り表記した。
- 一 碑の持つ特性・特質を生かすため、碑文中の文字はそのまま表記した。例 舊(旧) 但し、篆書体の文字や解説等で引用する場合は新字体を用いた。
- 一 文字の大小あるいは書体等もまちまちであるが、これも同じく統一した文字を用いた。
- 一 2つ以上に分けて建てられている碑については、碑文碑などとしてその区分がわかるように工夫した。直接の関連はないが参考になるとと思われる碑は参考の形で示した。
- 一 明らかに間違った内容が記されていると思われるものについては、注の形で示してある。
- 一 碑は数段からなるものが大半を占めているため、寸法の欄に2段、3段の形で示した。高さを最初に示し、次に横幅を最後に厚さの順で表記してある。高さは総高で幅と厚さについては最上段の碑の寸法で示した。碑はいびつな形のものもかなりあり数字はあくまで目安である。また忠魂碑などの中には計測できないものもあり、これらは計測不能とした。
- 一 碑のなかには摩耗が激しいものがあり、判読困難なものは■で、摩耗しているが前後の文脈等から判断して間違いないと思われる文字は□で示した。
- 一 和年号についてはすべて西暦で注記した。例 文久二年…一八六二年。
- 一 碑文は全てをそのままの形で省略せず掲載したが、裏面に羅列されている人名については詰めて記した。

例言

- 一、本書は「勝山市石碑調査報告書」の続編である。
- 二、調査にあたっては勝山市史編さん審議会の助言を受けた。

勝山市史編さん審議会	会長	荒井由泰氏
委員	奥田陽子氏	
委員	笠松雅弘氏	
委員	平泉和美氏	
委員	比良野八郎右エ門氏	
委員	本川幹男氏	
- 三、調査

勝山市教育委員会	教育長	梅田幸重
同 教育部長兼史蹟整備課長		平沢浩一郎
同 文化財保護グループ		
主幹(リーダー)	宝珍伸一郎	
主任	小沢紀美子	
主査	松田亘平	
主査(学芸員)	阿部来	
主査(学芸員)	藤本康司	
業務員	松村晶生	
嘱託	大沢真理子	
嘱託	山田雄造	
- 四、本書の執筆は山田雄造が行った。編集は勝山市教育委員会史蹟整備課と山田雄造が担当した。

勝山市石碑調査報告書

はじめに

平成二十六年（二〇一四）に勝山市石碑調査報告書として『勝山市の石碑』を発刊した。三年が経過し市民の皆様からの情報もあり、人物・一般そしてエコ・学校関係碑すべてを含めて、新たに50基をこえる石碑が見つかった。

前回は文化財・エコ町・学校関係碑については章としては3章を設けたが、ページ数の制約もあり十分に触れられなかった。今回『続 勝山市の

石碑』を発刊することになり、前巻の3章を独立させ、それぞれ4章 まちづくり文化財関係碑、5章 学校関係碑とした。また、これらの碑とは別に新たに見つかった碑については、6章 追加新規碑として章を設けた。

4章のまちづくり文化財関係碑は平泉寺町で新たに12基、5章の学校関係碑は二宮尊徳像なども碑として加えたため8基増えた。6章の新規追加碑は平泉寺7、猪野瀬1、勝山4、村岡2、野向4、北谷1、荒土3、北郷1、鹿谷4、遅羽5、で計32基、県外・市外で勝山に関係のあるもの4基も含めて36基を追加した。分類別では人

表16 地区別・分類別石碑一覧

区分	分類 地区	人物碑	一般碑	忠魂碑	文化財	エコ町	学 校	全体数
A	平泉寺	11	61	2	1	68	1	144
B	猪野瀬	3	22	1	0	3	1	30
C	勝 山	31	54	5	2	14	53	159
D	村 岡	4	20	2	0	3	5	34
E	野 向	3	21	4	2	8	5	43
F	北 谷	1	9	3	0	1	3	17
G	荒 土	8	22	1	0	4	21	56
H	北 郷	5	30	2	2	7	3	49
I	鹿 谷	3	24	5	1	5	3	41
J	遅 羽	0	16	1	3	6	0	26
K	県 外	0	4	0	0	0	0	4
	全体数	69	283	26	11	119	95	603

物碑4基、一般碑32基である。表16は前巻の表1の訂正版である。なお表については先の報告書からの通し番号である。

4章は3節を設けそれぞれ1節 平泉寺町まちづくり碑、2節 エコ関係碑 3節 文化財関係碑とした。5章の学校関係碑は今回すべての地区に節を設けた。地区別記号にaなどと小文字のアルファベットを用いてあるが地区区分は変わらない。6章の追加新規碑は地区の区分を取り払い一括して扱い、番号については地区ごとの番号を継続させた。市外・県外はまとめて記号Kとした。今後も新たに見つかると思われるが、現在までに調査した石碑は603基である。

4章 まちづくり・文化財関係碑

全体的な解説については先の報告書の3章1節 文化財・エコ町関係碑に譲る。この章で扱う碑は全体として大きくは4つに分かれ、それぞれ平泉寺町まちづくり推進協議会設置の碑、勝山エコ推進協議会設置の碑（勝山ライオンズクラブ碑を含む）、村部のエコミュージアム関係の碑、文化財碑である。文化財碑は11基、勝山町関係は14基、エコ関係碑は37基で前回と変化はない。平泉寺町まちづくりの碑が新たに12基を加え68基になった。

本来は地区別に分けるべきであるが、この章に限り1節を平泉寺町まちづくり碑、旧勝山町と村部のエコ関係碑は区分せず2節としてエコ関係碑とした。村部のエコ関係碑には、共通して「勝山市エコミュージアムふるさと元気博物館」と記され、No.1-1と通し番号も記されている。No.1は平成17年（二〇〇五）に設置されたことを示し、平成21年のNo.5までである。旧勝山町の碑は標題と説明文のみが記されている。3節は文化財関係碑とし写真は一部を掲載した。

1・2節の碑については碑の形態が統一されているため、原則として標題と碑に刻まれた文章も含め表形式で示すことにした。但し1節の平泉寺町の碑については特徴あるものを選び何点か写真を掲載した。また3節のエコ関係の碑についても、村部からモデルとなる碑の写真を示した。

1節 平泉寺町まちづくり碑

表中の番号は平泉寺町まちづくり推進協議会が作成した「平泉寺」のパンフレットの名所・旧跡標柱番号にならった。平成20年以降に設置されたものについては新たに番号を付した。設置場所については推進協議会作成のパンフレットを参照していただきたい。4基のみ写真で紹介した。

表17 平泉寺町まちづくり碑

記号	番	名 称	文 章	場 所	設置年月日
a	1	南大門跡	中世（戦国時代）平泉寺の仏教伽藍の正面に建っていた門	平泉寺	平成15.4
a	2	蘭塔	平泉寺再興の祖顕海僧上の御得（徳）を敬慕して、僧上の遺物、三昧一鉢を埋めその上に塔を建てた	平泉寺	平成15.7
a	3	東尋坊跡	東尋坊は力が強く乱暴な僧であったので、一山衆徒の恨みをかい三国の絶壁から突き落とされた。すると東尋坊の井戸は血の色に染まったという	平泉寺	平成15.4
a	4	麻結地蔵	老婆がお堂の前に麻を干し、柴刈に出たところ俄雨が降り慌てて帰ると、麻はきれいに結んでお堂の中に入れてあった	平泉寺	平成15.4
a	5	貴船神社跡	中世に平泉寺の安全祈願のため建立された社。御神体は船に乗った神様で今は白山神社境内に安置されている	平泉寺	平成15.4
a	6	構口跡	中世の平泉寺の正面を守っていた門。この下に大きな堀があった	平泉寺	平成15.4
a	7	若宮神社	平泉寺四十八社三十六堂のひとつ。この辺の字名は若宮という	平泉寺	平成15.4
a	8	天神堂	平泉寺四十八社三十六堂のひとつ。御神体は菅原道真。この辺の字名は天神堂という	平泉寺	平成15.4
a	9	城山	城山道場。この一角に平泉寺いくさ奉行の朝倉景鏡の墓がある	平泉寺	平成15.7
a	10	下馬大橋	菩提林の入口浄川にかかる橋。ここで馬を下り身を清めてからお参りした	平泉寺	平成15.4
a	11	常夜灯	昔は毎夜灯りがともされた。村の若者がよい嫁欲しさに灯の傘に石を投げ、乗ると願いが叶うと喜んだ	平泉寺	平成15.4
a	12	紺屋坂	平泉寺全盛の頃このあたりに紺屋があったという	平泉寺	平成16.3
a	13	鳥吠小路	兄に追われていた義経主従が観音堂に宿を取った時、夜中に一番鶏が鳴いて時を告げ、一行を追手から助けた	平泉寺	平成16.3
a	14	源如坊清水	このあたりは源如坊という坊院があったことからこの名がついたという	平泉寺	平成16.3
a	15	鎮守の宮跡	平泉寺全盛の頃鎮守の宮があったとされる場所	平泉寺	平成16.3
a	16	鬼ヶ市跡	平泉寺全盛の頃ここに市があったとされる。平泉寺にこのような市が三ヶ所あった	平泉寺	平成16.3
a	17	池尾明神跡	平泉寺全盛の頃ここに池尾（王）明神を祀っていたという	平泉寺	平成16.3

記号	番	名 称	文 章	場 所	設置年月日
a	18	狼清水	昔狼が時々来て水を飲んだことからこの名がついたという	平泉寺	平成16.6
a	19	九十九坂	文章なし	平泉寺	平成16.6
a	20	池端道場跡	昭和三十六年頃までここに浄土真宗の道場があった	平泉寺	平成16.6
a	21	平泉寺村役場跡	昭和二十九年九月に勝山市が誕生するまで村役場があった場所	平泉寺	平成16.6
a	22	金札	平泉寺全盛の頃、富くじや博打場として金のお札が舞った盛り場であったと伝えられる	平泉寺	平成16.6
a	23	義兵衛清水	弘法大師が来られたとき、ここに住む義兵衛がきれいな水を差し上げたことからこの名がついたという	平泉寺	平成16.6
a	24	安ヶ市跡	平泉寺全盛の頃構口門を出たところにあったとされる市の跡	平泉寺	平成16.6
a	25	金坂	文章なし	平泉寺	平成16.6
a	26	北谷六地藏	大正三年に北中尾の墓地が向三昧に統合されたときこの地に移された	平泉寺	平成16.6
a	27	平泉寺金山跡	江戸時代末期に採掘され昭和の初めまで断続的に操業した金山跡	平泉寺	平成16.6
a	28	合坂	文章なし	平泉寺	平成16.6
a	29	梶の宮跡	平泉寺四十八社三十六堂のひとつ。根の宮ともいう。この辺の字名は梶の宮という	平泉寺	平成16.3
a	30	辻の宮跡	平泉寺四十八社三十六堂のひとつ。この辺の字名は辻の宮という	平泉寺	平成18.3
a	31	宮道場跡	本覚寺の末寺で火災の後池端道場へ合流する	平泉寺	平成18.3
a	32	千日坂道場跡	本覚寺の末寺で後に池端道場へ合流する	平泉寺	平成18.3
a	33	弁慶岩	昔から弁慶岩といわれている。この辺の字名は弁慶岩という	平泉寺	平成18.3
a	34	弁財天堂跡	平泉寺四十八社三十六堂のひとつ。この辺の字名は弁財天堂という	平泉寺	平成18.3
a	35	むじな道（上）	平泉寺の最も古い道といわれ今も村の中心部を縦断している	平泉寺	平成18.3
a	36	むじな道（中）	平泉寺に伝わる古道	平泉寺	平成19.3
a	37	むじな道（下）	平泉寺に伝わる古道	平泉寺	平成19.3
a	38	弥勒（みろく）堂跡	平泉寺三十六堂の一つ。現在木村家に伝わる弥勒（みろく）菩薩がまつられていた	平泉寺	平成19.3
a	39	蓮如上人腰掛岩	蓮如上人がこの石に腰掛けて親鸞上人の説えを説いた。松尾の山中よりここに移動した	平泉寺	平成19.3
a	40	竜池小学校跡	平泉寺地区にあった小学校。統合されて平泉寺小学校になった	平泉寺	平成19.3
a	41	堀跡	ここに堀があり上を土井の上、下を土井の下と言った	平泉寺	平成19.3
a	42	正光山空心房跡	玄成院第九世慈観は赤尾へ隠棲し、正光山普門寺妙覚院を開山、空心房は普門寺の一坊である。これより約五十米先南東山中	赤尾	平成15.7
a	43	下野白山神社跡	明治十九年まで赤尾四社の内の一つがここにあった。平泉寺の境外末社で赤尾小白山と称された	赤尾	平成16.3
a	44	宇次郎神社跡	明治九年まで赤尾四社の内の一がここにあった。平泉寺の境外末社で赤尾小白山と称された	赤尾	平成16.3
a	45	正光山普門寺妙覚院跡の碑	『勝山市の石碑』P54参照。	赤尾	平成17.3
a	46	深達院権僧正覚諄誕生の地	一七五三年赤尾上山家に生まれ八才で平泉寺に入山。のち上野輪王寺宮日光医王院を経て山形県羽黒山別当第七十五世となる	赤尾	平成18.3
a	47	槍先形尖頭器発見の池	昭和六十三年この池の岸边から先のとがった石器が見つかった。これは一万二千年前縄文時代草創期に、鳥や獣の狩猟用として石で作った槍で、福井県で初めての発見である	赤尾	平成19.3
a	48	寺野白山神社	明治十九年の統一までは赤尾に四つの神社があり、この神社もその内の一つであった。合併後も昭和二十四年頃まで観音堂が建っていたが、現在は神野の氏神となっている	赤尾	平成19.3
a	49	長坊山東海和尚墓	笹尾に疫病が流行った為、東海和尚が穴の中で疫病払いの念仏を唱え続け人柱となって死んだ	笹尾	平成15.7
a	50	笹野小学校跡	岩ヶ野小学校は明治二十五年廃校となり笹野小学校と合併した。笹野小は大正十四年平泉寺尋常高等小学校ができるまで長坊山の地に学舎があった	笹尾	平成18.3
a	51	宮（はこ）ノ渡し	泰澄大師が白山への途中九頭竜川を渡りたかったが、舟がなく百姓に箱のふたで渡してもらった	大渡	平成15.7
a	52	泰澄大師草庵跡これより奥へ	文章なし	大渡	平成16.3
a	53	幕根遺跡御所五郎丸屋敷跡	九頭竜川右岸で河岸段丘上に立地する古い遺跡。御所五郎丸が恩賞として壁倉周辺を拝領し社を建立	壁倉	平成16.3
a	54	壁倉の渡し	大野にいた朝倉景鏡は朝倉義景を自害させたので、一向一揆勢に恨まれ逃げる途中、壁倉の渡しを渡り平泉寺の宝光院を頼ったことで、一揆が平泉寺を攻め滅ぼすとの噂がたった	壁倉	平成18.3
a	55	弁財天堂跡	白山六千坊の一つ。弁財天堂は人のけがれを払い天地（災）地変を排し人の福德財宝を与える神	岩ヶ野	平成15.7

記号	番	名 称	文 章	場 所	設置年月日
a	56	観音堂	衆生救済と門人の信仰の観音堂	岩ヶ野	平成16.3
a	57	岩ヶ野小学校跡	明治五年から明治二十五年の二十年間、笹野小学校との合併まで、岩ヶ野小学校で学んだ	岩ヶ野	平成19.3
a	58	泰澄大師宿泊大岩窟	経ヶ岳噴火の際生じた大岩窟は岩影で、泰澄大師が泊った「一の宿」とされる	大矢谷	平成15.7
a	59	大矢谷発祥の地(岩屋)	先人が最初にここで雨露をしのぎ荒地を切り開いた所と言われる	大矢谷	平成16.3
a	60	じゅんさいの池	堤に生えたじゅんさいを小笠原の殿様に献上して大変喜ばれた	小矢谷	平成15.7
a	61	いぼ岩	大岩の中ほどに五センチくらいのくぼみがあり、中の水をいぼにつけると何時の間にか治る	神野	平成15.7
a	62	経塚の遺跡	平泉寺全盛期の頃僧侶が経文を埋めた塚	経塚	平成15.7
a	63	碁盤石	平泉寺六千坊時代、開碁の得意なお坊さん連中が、この碁盤石により碁を打ったといわれている	平泉寺	平成20.8
a	64	小豆かしき	昔は2枚の大きな平たい石が掛けてあった。その橋下を流れる水の音がシャリシャリと小豆をかしく音に聞こえたという	平泉寺	平成20.8
a	65	大地蔵跡	現在、顕海寺に安置されている大地蔵は、この地にあったといわれている	平泉寺	平成20.8
a	66	北釈迦堂跡	その昔、釈迦堂があったところ	平泉寺	平成20.8
a	67	大六坂	昔から伝わる坂道の名前	平泉寺	平成20.8
a	68	千日坂	昔から伝わる坂道の名前	平泉寺	平成20.8

老婆がお堂の前に麻を干し、柴刈に出たところ、俄雨が降り慌てて帰ると、麻はきれいに結んでお堂の中に入れてあった



a | 4
麻結地藏

大正三年に北中尾の墓地が向三昧に統合されたときこの地に移された



a | 26
北谷六地藏

a | 58 泰澄大師宿泊大岩窟



経ヶ岳噴火の際生じた大岩窟は岩影で、
泰澄大師が泊った「一の宿」とされる

a | 59 大矢谷発祥の地（岩屋）



先人が最初にここで雨露をしのぎ荒地を
切り開いた所と言われる

2 節 エコ関係碑

表中の地区ごとの番号は先の報告書からの通し番号である。名称は碑の表の標記を文章は裏面の説明の文章である。4基のみ写真で紹介した。

表18 エコ関係碑

地区	記号	番号	名 称	文 章	場 所	設置年月日	備 考
猪野瀬	B	26	泰澄大師御生母廟所	大師の母は伊野原の出生と伝えられ、笏谷石製の層塔一基と、五輪塔四基がゆかりの地に建てられた。二基の五輪塔は十四世紀の製作	下毛屋	平成21年	No5- 1
猪野瀬	B	27	大師堂	泰澄大師の尊像を安置するため創建されたと伝えられる。中世の平泉寺を描いた境内図に、大師堂と思われる建物が山頂付近に見える	片 瀬	平成21年	No5- 2
猪野瀬	B	28	記念碑	『勝山市の石碑』 p67 ～ 68参照。	若猪野	平成16年3月	
勝山	C	89	おたね坂	この坂を登ると天主台に出た	本 町		ライオンスクラブ
勝山	C	90	石坂	この坂の登り口に高札が立った	本 町		ライオンスクラブ
勝山	C	91	追手坂	追手門（大手門）に通じる坂であった	本 町		ライオンスクラブ
勝山	C	92	神明坂	神明神社の横手を登る坂	本 町		ライオンスクラブ
勝山	C	93	小姥母坂	こおんばと藩主の話が伝わる坂	本 町		ライオンスクラブ
勝山	C	94	おたね坂と米屋横町	おたね坂と米屋横町。昔、藩の若侍と町娘おたねの悲話が残る坂道で、おたね坂と呼ばれています。この坂の下から本町までは、米屋横町と呼ばれ、勝山一の米問屋があった所とされています（注）万市坂とも呼ばれた	本 町		
勝山	C	95	大蓮寺橋	牛首街道の通行人のために古くから架けられていた橋で、側到大蓮寺があるので大蓮寺橋と呼ばれた（注）古くは谷道と呼ばれていた	沢 町		
勝山	C	96	神宮寺橋	このあたりに、明治の初めまで、小笠原氏の氏神八幡神社と、その別当神宮寺が建っていたころから、神宮寺橋と呼ばれるようになった（注）別当神宮寺は別当寺の神宮寺の意味	元 町		
勝山	C	97	義宣寺橋	元は富田橋と言ったが、義宣寺の門前にあるところから義宣寺橋とも呼ばれた。昭和十年に架け替えられた際、正式名になった。	沢 町		
勝山	C	98	石橋	文章なし	栄 町		
勝山	C	99	長山講武台跡	幕末、異国船渡来に危機感つる当時、武備整備のため小笠原藩家老林毛川が、多くの人々を使役し、八年の歳月をかけて築造した。	長山公園		
勝山	C	100	東御門橋	この場所に勝山城本丸の東御門があったところから、東御門橋と呼ばれるようになった。	元 町		
勝山	C	101	万都横町	おたね坂を下りて本町より寺町に入る道路が万都通りで、通称魚横町として人々に親しまれていました。魚横町と米屋横町の交わる十字路には、金灯籠が建っていました。	本 町		
勝山	C	102	参溪橋	この橋の側に小笠原氏の家臣安田参溪の屋敷があったところから、参溪橋と呼ばれるようになった（注）絵図には「算啓橋」とある。安田参溪は三溪。	元 町		

地区	記号	番号	名 称	文 章	場 所	設置年月日	備 考
勝山	C	103	鵜の嶋の渡し跡	この辺りから対岸中島へ渡し舟が出ていた。九頭竜川に大きな中洲があり、この中洲を鵜の嶋と呼ばれたことから、この名がついたようだ	本 町		
村岡	D	25	蓮如御掛錫「蓮如さん腰掛石」	この地は蓮如上人が一時滞在し真宗の教えを説かれた御掛錫の地と伝え、この岩にその足跡を留めている	黒 原	平成17年	No1- 1
村岡	D	26	村岡山城跡	一向一揆軍と平泉寺軍の合戦の舞台で、一揆軍の勝ち戦を祝してこの村岡山を勝山（かちやま）と呼ぶようになった	村岡山登り口	平成18年	No2- 3
村岡	D	27	村岡山城跡	p 7 参照。	村岡山山頂		
野向	E	27	蓮如御掛錫	掛錫とは僧がしばらく留まることで、本願寺蓮如上人が竜谷を訪れて、弥陀の本願を説いたと言われている場所である	竜 谷	平成17年	No1- 2
野向	E	28	石灰山跡	幕末から採掘が始まる。明治には竜谷等の窯で、年三万俵も焼かれ、肥料として使われた。大正中頃から勝山電化のカーバイト原料にもなる	竜 谷	平成20年	No4- 5
野向	E	29	箸杉	蓮如上人が杉の枝を削って作った箸をこの地に差し立てたところ根付き、この大杉に育ったと伝えられている	北野津又	平成17年	No1- 3
野向	E	30	五三の松	蓮如上人お手植えの松の木で五葉三葉の葉をつけていた。後年大雪と台風で枯れた為、保護屋で守っている	北野津又	平成17年	No1- 4
野向	E	31	蓮如様清水	蓮如上人がこの地に来た時より湧き出している水で、上人が炊飯に用いたと伝えられている	北野津又	平成17年	No1- 5
野向	E	32	不乾池	蓮如上人お手掘りの池で、日照りの夏に枯れることもなく、大雨の梅雨にもあふれることがないという	北野津又	平成17年	No1- 6
野向	E	33	御丈比べ石	蓮如上人がこの地を去る時、上人と同じ高さの石を村人に形見にせよと言われ、残されたと伝えられている	北野津又	平成17年	No1- 7
野向	E	34	野津又城跡（高尾山）	野津又城は越前一向一揆の主力が壊滅した後も、顕如の激励を得て籠城を続け柴田軍の加賀侵入を阻止した	北野津又	平成18年	No2- 2
北谷	F	13	谷城跡	七山家(ななやまか)を中心とする一向一揆軍の砦（とりで）跡。この城を攻めていた柴田義宣は近くで討ち死にしたという	谷伊良神社境内	平成18年	No2- 1
荒土	G	29	佐羅宮（白山一宮神社）	貞享二年（一六八五）の国絵図は伊波村付近に佐良宮を描く。白山七社の一つで、唯一平泉寺境内の外に置かれ神輿のお渡りがあった	伊 波	平成21年	No5- 3
荒土	G	30	壇ヶ城跡	一向一揆の大将嶋田将監（しょうげん）が立て籠もった砦跡。ここを拠点に信長方に寝返った朝倉景鏡（かげあきら）や平泉寺を攻撃した	堀名中清水	平成18年	No2- 4
荒土	G	31	堀名銀山跡	江戸幕府直轄の鉱山。当初は飛騨高山で製錬していたが、後には日吉神社境内内りで行った。橘曙覧が詠んだ短歌で有名となった。	堀名中清水	平成20年	No4- 3
荒土	G	32	石灰山跡	明治時代末には十一カ所で採掘し五十八個の釜があった。年生産百万貫（三七五〇トン）におよぶ、一日三百人の人夫が従事していた。	堀名中清水	平成20年	No4- 4
北郷	H	39	北袋銀山（新町銀山）跡	安土桃山時代に拓かれた銀山。文禄二年（一五九三）の豊臣秀吉朱印状にも名前が見られ、秀吉の直轄銀山であったことが分かる。	新 町	平成20年	No4- 2
北郷	H	40	小舟渡	小舟渡は、九頭竜川の重要な渡し場であり、明治には森川と対岸を結び、舟二十隻を並べ、全長百m余りの舟橋が作られた	下森川	平成19年	No3- 1
北郷	H	41	蓮照寺	文明五年の頃、蓮如上人が当寺に逗留し蓮照寺の号を賜わる。上人自作の木像・鏡池・腰掛石・御繕（膳）水井戸が今に伝えられる	東 野	平成17年	No1- 9
北郷	H	42	伊知地下道場（蓮如清水藤掛名号）	蓮如上人がこの地に逗留の折書かれた六字名号及び正信偈文二幅は、境内の泉のほとりにあった古藤の絡まった老椿にちなんで、藤掛名号と呼ばれる	伊地知	平成17年	No1-10
北郷	H	43	畑ヶ塚（伊知地古戦場）	南北朝時代の猛将畑時能（ときよし）が戦死した地と伝えられる場所。命日の十月二十五日には毎年法要が営まれる	伊地知	平成18年	No2- 5
北郷	H	44	鷲ヶ岳（鷲ヶ岳城跡）	南北朝時代に新田義貞の家臣畑時能（ときよし）が足利方と奮戦した場所。山頂には時能が籠もったという城跡が残る	伊地知	平成18年	No2- 6
北郷	H	45	坂東島鉱山跡	江戸時代末より、金銀銅等の採掘を始める。明治三十九年（一九〇六）には三菱合資会社が採掘を開始し、近郷最大級の銅鉱山となる	坂東島	平成20年	No4- 1
鹿谷	I	30	淡月道	九頭竜川沿いの道路は赤岩の岩壁で交通がはばまれていた。山内淡月の尽力によりできた道であるため淡月道と呼ばれた。	発 坂	平成19年	No3- 2
鹿谷	I	31	保田下道場蓮如上人硯水の池	蓮如上人が教化の旅で当地に輦輿（こし）を留めて弥陀の本願を説かれ、この池の水を硯に汲んで六字名号を書かれたという	保 田	平成17年	No1- 8
鹿谷	I	32	保田城跡（西光寺）	朝倉氏の家臣によって築かれたという山城。頂上には二つの郭、三つの堀切、五十四条の空堀がある	保 田	平成18年	No2- 7
鹿谷	I	33	矢戸坂	矢戸口と大矢戸（大野市）を結ぶ山道であり、尾根には樹齢数百年と言われる薄墨桜の群生がみられる	矢戸口	平成19年	No3- 3
鹿谷	I	34	蓬生坂	昔から鹿谷町と蓬生（遅羽町）を通り勝山への幹線道であった。また大野への主要道にもなった	東遅羽口	平成19年	No3- 4

地区	記号	番号	名 称	文 章	場 所	設置年月日	備 考
遅羽	J	16	旧京福電鉄下荒井トンネル	大正十四年下荒井トンネルが開通し、勝山～大野間の距離が短縮され、人および貨物輸送に貢献した	下荒井	平成19年	No3- 8
遅羽	J	17	三室山城跡	戦国時代末期、一向一揆軍が築いた砦の一つ。平泉寺の動きが一望でき重要な拠点であった	螃 崎	平成18年	No2- 8
遅羽	J	18	蓬生坂	昔から蓬生～鹿谷を結ぶ幹線路であったと共に、勝山及び下荒井から大野へ通じる道でもある	蓬 生	平成19年	No3- 5
遅羽	J	19	鵜嶋の渡	江戸期から中島村（妙法鼻）と畔川村間の渡しとして栄え、勝山大野間の交通路であった（勝山橋の架橋まで）	中 島	平成19年	No3- 7
遅羽	J	20	比島の渡	比島は滝波、新保、松ヶ崎の九頭竜川沿いに、七ha余りの田畑があり、村民の新保へ耕作のための交通路であった。	比 島	平成19年	No3- 6
遅羽	J	21	比島観音（入口）	平泉寺の境内四隅を四至と呼ぶ。その北西方向にあたる比島山頂付近にお堂を建て、石の厨子に納めて千手観音を祀った。	比 島	平成21年	No5- 4

鵜嶋の渡し跡

この辺りから対岸中島へ渡し舟が出ていた。九頭竜川に大きな中洲があり、この中洲を鵜嶋と呼ばれたことから、この名がついたようだ



C-103 鵜嶋の渡し跡

こおんばと藩主の話が伝わる坂
小姥母坂



C-93 小姥母坂

村岡山城跡

天正二年（一五七四）、平泉寺と対立していた七山家を中心とする一向一揆勢は、ここ村岡山に一夜で城を築きました。平泉寺はすぐに村岡山を攻めましたが、逆に攻撃を受け焼き討ちされてしまいました。一揆勢がたてこもり勝利につながった村岡山は、「勝山」と名づけられ、今の勝山の地名にもつながっています。

天正三年（一五七五）、織田信長が越前の一揆を鎮圧し、勝山地域にはその家臣柴田義宣がやってきました。義宣は一揆の残党に敗れ討ち死にしますが、その養子勝安が一揆を滅ぼし、本拠地を袋田（今の



D-27 村岡山城跡

市役所付近）に移して勝山の町の原型をつくりました。

村岡山は、九頭竜川流域や石川県と勝山を結ぶ街道筋を見わたすことができる地にあります。城跡の西側は、一揆勢がたてこもった城の痕跡を残しています。そして、主郭の櫓台や、主郭を取り巻く大規模な堀、土塁や堀を組み合わせた複雑な出入口（虎口）は、柴田氏が一揆勢のつくった城に大きく手を加えたもので、一向一揆と織田政権との戦いを今に伝えるものであるといえます。

勝山市エコミュージアム「ふるさと元氣博物館」

まちづくり・むろこの会

村岡町連合壮年会

H-39

北袋銀山（新町銀山）跡
遺跡No.4-2



北袋銀山（新町銀山）跡

安土桃山時代に拓かれた銀山。文禄二年（一五九三）の豊臣秀吉朱印状にも名前が見られ、秀吉の直轄銀山であったことが分かる

表19 文化財関係碑

地区	記号	番号	名 称	場 所	設置年月日
平泉寺	A	68	勝山市指定文化財 聖観音菩薩立像	平泉寺	昭和63.2
勝山	C	87	市指定文化財 木造如意輪観音菩薩坐像	沢 町	
勝山	C	88	勝山市指定文化財 毘沙門の金燈籠	本 町	
野向	E	25	勝山市指定文化財 名勝 龍谷公園	竜 谷	平成14.12
野向	E	26	勝山市指定文化財 紅梅塚桜塚	竜 谷	
北郷	H	37	旧跡 小舟渡（渡）	下森川	昭和41.6.26
北郷	H	38	史跡 畑ヶ塚	伊地知	昭和19.4.7
鹿谷	I	29	勝山市指定文化財 西光寺の大杉	西光寺	昭和41.6.26
遅羽	J	13	旧跡 宮ノ渡	下荒井	昭和41.6.26
遅羽	J	14	旧跡 鷺ノ島渡	中 島	昭和41.6.26
遅羽	J	15	旧跡 比島ノ渡	比 島	昭和41.6.26

3節 文化財関係碑

表中の地区ごとの番号は、先の報告書からの通し番号である。名称は碑の表の標記を、文章は裏面の説明の文章である。3基のみ写真で紹介した。

E-25 勝山指定文化財名勝龍谷公園



勝山指定文化財 名勝 龍谷公園
 (側面) 平成十四年十二月建立
 龍谷区

(裏)
 昭和五十四年四月五日指定
 勝山市教育委員会

H-38 史跡畑ヶ塚



史跡畑ヶ塚
 (側面) 昭和拾九年四月七日指定 福井県
 (裏) 寄附 高野新松

I-29 勝山市指定文化財西光寺の大杉



勝山市指定文化財 西光寺の大杉
 (裏)
 昭和四十一年六月二十七日指定
 勝山市教育委員会

5章 学校関係の碑

全体的な解説については先の報告書の3章2節 学校関係石碑に譲る。最近になり学校の統廃合が現実的な問題となってきたため、各地区の学校沿革史的な情報も必要であると考えた。そのため石碑の存在しない遅羽地区も含めて、明治以降の学校の統廃合について、簡単な一覧表を作成し触れることにした。その関係で旧1町9村すべてについて節を設けた。

次に表について説明する。表20は先の報告書の表15を訂正補足したものである。二宮尊徳像や楠正成像などの人物碑も石碑に含めたため、平泉寺小学校と猪野瀬地区の龍東小学校が加わり、地区数が2、石碑数も8基増えた。「記号」は地区に割り当てたもの、「番号」はその地区ごとの通し番号である。名称は碑の表に記された表題を採用してある。一部省略したものもあり、また表題のないものについては碑の性格を考慮して補った。「贈呈者」はわかる範囲内で区分したが卒業生が大半を占める。同窓会やPTA、個人の寄附も見られる。

目安として分類の欄を設けたが、分類は何に基準をおくかで異なる。例えば校歌と分類した中にも単に校歌とあるものと、校歌碑とあるものが見られる。また建設されるに至った経緯もそれぞれ異なると思われる。そのため形式的に分類せざるを得ず、ここでは何を目的に作られたかを指標に分類した。例えば卒業生の自戒の念がこめられているもの、あるいは在校生への餞の言葉、さらには激励、鼓舞の意味が込められているようなもの、これらは「標語」とした。細かく分類しても意味がないと考え7～8項目に分けた。結果的には標語・植樹・寄贈に関わるものが多かった。

設置年月日の中で（ ）を付けたものは、年月日を記さないが卒業年がわかるものである。無とあるのは全く資料がなくわからないものである。地区別の一覧には寸法の欄を設けたが、空白になっているのは計測できないものや必要がないと思われる碑である。

表20 学校全体石碑一覧

学校名	記号	番号	名 称	設置年月日	贈 呈 者	分 類
平泉寺小	a	1	楠正成像	無	不明	像
成器南小	c	1	(十三回卒業記念)	(昭和37)	卒業生	卒業作品
成器南小	c	2	校歌之碑	昭和38.3.23	卒業生	校歌
成器南小	c	3	(24回卒業記念)	(昭和48)	PTA	寄贈品
成器南小	c	4	(優秀校記念)	昭和48.11	卒業生	表彰記念
成器南小	c	5	(26回卒業記念)	昭和50.3	卒業生	寄贈品
成器南小	c	6	希望	(昭和57)	卒業生	標語
成器南小	c	7	琢玉成器	昭和60.3	卒業生	標語
成器南小	c	8	希望の道	平成6.3	卒業生	卒業作品
成器南小	c	9	(築庭造成協力者碑)	無	PTA	寄贈品
成器西小	c	10	二宮尊徳像	無	不明	像
成器西小	c	11	(二宮尊徳像寄贈碑)	昭和6.5	個人	像
成器西小	c	12	紀元二千六百年記念樹	(昭和15)	不明	植樹記念
成器西小	c	13	(前庭寄贈記念)	昭和32.3	不明	寄贈品
成器西小	c	14	希望	(昭和33)	卒業生	標語
成器西小	c	15	(希望の時計塔)	昭和37.3.19	卒業生	(標語)
成器西小	c	16	(勝山中二十一回卒業記念)	昭和43.3.19	卒業生	寄贈品
成器西小	c	17	(勝山中学校校歌碑)	昭和49.3.20	卒業生	校歌
成器西小	c	18	勝山中学校記念碑	昭和49.3	PTA	閉校記念
成器西小	c	19	童心	(昭和51)	卒業生	卒業記念
成器西小	c	20	(校歌碑)	昭和52.3	卒業生	校歌
成器西小	c	21	(第三十八回卒業記念)	昭和60.3	卒業生	寄贈品
成器西小	c	22	飛翔	平成元年	卒業生	標語
成器西小	c	23	(第45回卒業記念)	平成4.3.19	卒業生	卒業記念

学校名	記号	番号	名 称	設置年月日	贈 呈 者	分 類
成器西小	c	24	ひたむき 直・向・樹	平成17.3	卒業生	標語
南部中	c	25	(昭和七年度入学生卒業記念)	無	卒業生	寄贈品
南部中	c	26	(校歌碑)	昭和50.3	卒業生	校歌
南部中	c	27	(南部中新築記念)	昭和50.6	PTA	寄贈品
南部中	c	28	啓発録	昭和55.3.18	卒業生	標語
南部中	c	29	讃歌	昭和59.3	卒業生	(標語)
南部中	c	30	十周年記念アカシヤ公園	(昭和59)	PTA	寄贈品
南部中	c	31	十周年記念	(昭和59)	PTA	寄贈品
南部中	c	32	理想は高く心は清く	昭和61.10	PTA	標語
南部中	c	33	とぼし灯	平成7.3.吉日	PTA	表彰記念
南部中	c	34	咲	(平成14)	卒業生	標語
南部中	c	35	(前庭の舗装記念碑)	平成17.8.吉日	同窓会	寄贈品
中部中	c	36	(校歌碑)	昭和48.3	PTA	校歌
中部中	c	37	ここに新しい伝統を	昭和50.10	卒業生	標語
中部中	c	38	歲月人を待たず	昭和51.3.12	卒業生	標語
中部中	c	39	卒業記念樹	昭和53.3	卒業生	植樹記念
中部中	c	40	卒業記念樹	昭和54.3	卒業生	植樹記念
中部中	c	41	精魂	昭和54.3	卒業生	標語
中部中	c	42	探究	昭和54.12	卒業生	標語
中部中	c	43	走れ青春の広野を	昭和60.10	PTA	標語
中部中	c	44	卒業記念樹	昭和61.3	卒業生	植樹記念
中部中	c	45	啓発録	無	卒業生	標語
中部中	c	46	いま自立の翼を広げて	無	PTA	標語
中部中	c	47	日時計	無	卒業生	(標語)
勝山高	c	48	まこと 真・誠・信	平成8.3	PTA	校訓
勝山高	c	49	ともしび	平成14.3	PTA	閉校記念
旧勝山南	c	50	(校歌碑)	昭和49.3	卒業生	校歌
旧勝山南	c	51	働学一如	平成4.3	不明	校訓
旧勝山南	c	52	創立50周年記念	平成4.11.1	同窓会	創立記念
旧勝山南	c	53	友愛自立	平成7.3	卒業生	校訓
村岡小	d	1	(校歌碑)	昭和54.3	卒業生	校歌
村岡小	d	2	(卒業記念時計)	昭和60.3	卒業生	寄贈品
村岡小	d	3	さあ翔こうぼくらの21世紀	平成(6)	卒業生	標語
村岡小	d	4	二宮尊徳像	無	不明	像
村岡小	d	5	楠正成像	無	不明	像
野向小	e	1	記念樹	昭和24.3	卒業生	植樹記念
野向小	e	2	愛敬	昭和59.3.吉日	団体	標語
野向小	e	3	(校歌碑)	平成2.3.吉日	個人	校歌
野向小	e	4	文部大臣賞受賞記念	平成4.10.10	団体	表彰記念
野向小	e	5	ふれあい	平成9.10.18	個人	(標語)
旧北谷小	f	1	(開校七十周年記念)	昭和41.11	個人	寄贈品
旧北谷小	f	2	(記念植樹)	昭和60.6.吉日	団体	植樹記念
旧北谷小	f	3	(校歌碑)	平成10.8.吉日	P T A	閉校記念
荒土小	g	1	希望	昭和60.3.吉日	個人	標語
荒土小	g	2	真理	昭和60.3.吉日	P T A	校訓
荒土小	g	3	校舎改築記念	昭和60.3.吉日	個人	寄贈品
荒土小	g	4	(校歌碑)	昭和60	個人	校歌
荒土小	g	5	記念樹	(昭和61)	卒業生	植樹記念
荒土小	g	6	(組合設立記念碑)	昭和62.3	団体	その他
荒土小	g	7	悠々と遊々と	平成15.3	卒業生	標語
荒土小	g	8	(創立百周年記念樹)	平成21.5.吉日	団体	植樹記念
荒土小	g	9	二宮尊徳像	無	不明	像

学校名	記号	番号	名 称	設置年月日	贈 呈 者	分 類
北部中	g	10	第一回卒業記念植樹	昭和33.3	卒業生	植樹記念
北部中	g	11	第二回卒業生記念植樹	(昭和34)	卒業生	植樹記念
北部中	g	12	はるかなる道をゆくわれら強し	(昭和44)	卒業生	標語
北部中	g	13	創立二十周年記念樹	昭和54.10.1	不明	植樹記念
北部中	g	14	歲月	昭和58.3.吉日	卒業生	標語
北部中	g	15	絆 卒業記念の庭	(昭和59)	卒業生	標語
北部中	g	16	(校門寄贈)	昭和61.10	団体	寄贈品
北部中	g	17	永久の灯	(昭和63)	卒業生	標語
北部中	g	18	卒業記念植樹	平成1.3	卒業生	植樹記念
北部中	g	19	飛翔	平成2	卒業生	標語
北部中	g	20	敬愛	平成3	卒業生	標語
北部中	g	21	(平成八年度卒業生記念)	平成8	卒業生	卒業作品
北郷小	h	1	(校門寄贈)	昭和41.4	個人	寄贈品
北郷小	h	2	飛躍	昭和61.3	卒業生	標語
北郷小	h	3	二宮尊徳像	無	個人	像
鹿谷小	i	1	(国旗掲揚台寄贈)	昭和47.8	個人	寄贈品
鹿谷小	i	2	(校門寄贈)	昭和56.6	有志	寄贈品
鹿谷小	i	3	二宮尊徳像	無	個人	像

表21 平泉寺地区

記 号	番号	名 称	学 校 名	設置年月日	寸 法	備考
a	1	楠正成像	平泉寺小学校	無	不要	

表22 平泉寺地区学校沿革

設立年	西暦	学 校 名	場 所	備 考
明治5年	1872	龍池小学校	平泉寺	赤尾・平泉寺・岡横江・片瀬4区で設立。後に赤尾・片瀬区は分離
明治6年	1873	岩ヶ野小学校	岩ヶ野	壁倉・岩ヶ野・大矢谷・小矢谷4区で設立。25年に廃校、笹野小学校に合併。大矢谷・小矢谷区は大矢谷に分教場を設ける。～35年迄
明治7年	1874	笹野小学校	(大渡後笹尾)	大渡・赤尾・笹尾3区で設立。後に壁倉区加入
大正9年	1920	平泉寺小学校	平泉寺	龍池小学校と笹野小学校が合併
昭和22年	1947	平泉寺小学校	平泉寺	新学制
昭和22年	1947	平泉寺中学校	平泉寺	～48年迄

1節 平泉寺地区



a
1
楠正成像

表23 猪 野 瀬 地 区

記 号	番号	名 称	学 校 名	設置年月日	寸 法	備 考
b	1	二宮尊徳像	(龍東) 小学校	無	不要	

表24 猪野瀬地区学校沿革

設立年	西暦	学 校 名	場 所	備 考
明治6年	1873	龍東小学校	若猪野	猪野毛屋・下毛屋・猪野（3区で一時弘文校）・畔川・下高島・北市・上高島（4区で一時分教場）・若猪野・猪野口9区で設立。昭和6年成器校に併合され分教場となる。昭和23年成器南小学校として独立、翌年若猪野分教場に。同34年閉校
明治11年	1878	師山小学校	片 瀬	片瀬区で設立。明治7年昭龍池小学校から分離。仏母寺を仮校舎とする。11年師山小学校と称す。昭和6年成器校に併合され廃校
明治14年	1881	弘文小学校	猪野毛屋	猪野毛屋・下毛屋・猪野3区で設立。～明治25年迄



b 1 二宮尊徳像

表25 勝 山 地 区

記号	番号	名 称	学校名	設置年月日	寸 法 (m)	備 考
c	1	(十三回卒業記念)	成器南小	(昭和37)	不要	
c	2	校歌之碑	成器南小	昭和38.3.23	2 段 総高1.16×1.15×0.17	
c	3	(24回卒業記念)	成器南小	(昭和48)	不要	プレート
c	4	(優秀校記念)	成器南小	昭和48.11	3 段 総高0.41×0.61×0.14	
c	5	(26回卒業記念)	成器南小	昭和50.3	不要	プレート
c	6	希望	成器南小	(昭和57)	不要	
c	7	琢玉成器	成器南小	昭和60.3	1 段 総高0.93×1.68×0.16	
c	8	希望の道	成器南小	平成6.3	不要	プレート
c	9	(築庭造成協力者碑)	成器南小	無	1 段 総高0.67×0.17×0.08	
c	10	二宮尊徳像	成器西小	無	不要	
c	11	(二宮尊徳像寄贈碑)	成器西小	昭和6.5	不要	
c	12	紀元二千六百年記念樹	成器西小	(昭和15)	1 段 総高0.74×0.15×0.15	
c	13	(前庭寄贈記念)	成器西小	昭和32.3	1 段 総高0.20×0.60×0.13	
c	14	希望	成器西小	(昭和33)	不要	
c	15	(希望の時計塔)	成器西小	昭和37.3.19	不要	
c	16	(勝山中二十一回卒業記念)	成器西小	昭和43.3.19	不要	
c	17	(勝山中学校校歌碑)	成器西小	昭和49.3.20	1 段 総高1.01×1.81×0.16	
c	18	勝山中学校記念碑	成器西小	昭和49.3	1 段 総高2.13×0.98×0.18	
c	19	童心	成器西小	(昭和51)	不要	
c	20	(校歌碑)	成器西小	昭和52.3	3 段 総高1.18×1.92×0.16	
c	21	(第三十八回卒業記念)	成器西小	昭和60.3	不要	
c	22	飛翔	成器西小	平成元年	1 段 1.29×0.72×0.72	
c	23	(第45回卒業記念)	成器西小	平成4.3.19	1 段 総高2.10×0.92	
c	24	ひたむき 直・向・樹	成器西小	平成17.3	1 段 総高0.43×0.50×0.12	
c	25	(昭和七年度入学生卒業記念)	南部中	無	1 段 総高0.92×0.40×0.40	
c	26	(校歌碑)	南部中	昭和50.3	1 段 総高2.00×2.40×0.65	プレート
c	27	(南部中新築記念)	南部中	昭和50.6	不要	
c	28	啓発録	南部中	昭和55.3.18	1 段 総高0.92×1.93×0.18	
c	29	讃歌	南部中	昭和59.3	1 段 総高1.15×1.20×0.45	
c	30	十周年記念アカシヤ公園	南部中	(昭和59)	2 段 総高1.82×0.13×0.14	
c	31	十周年記念	南部中	(昭和59)	2 段 総高1.82×0.13×0.14	
c	32	理想は高く心は清く	南部中	昭和61.10	不要	プレート
c	33	とほし灯	南部中	平成7.3.吉日	2 段 総高0.93×1.08×0.30	
c	34	咲	南部中	(平成14)	1 段 総高0.52×0.75×0.19	
c	35	(前庭の舗装記念碑)	南部中	平成17.8.吉日	1 段 総高0.74×0.12×0.12	
c	36	(校歌碑)	中部中	昭和48.3	1 段 総高0.91×1.90×0.17	
c	37	ここに新しい伝統を	中部中	昭和50.10	2 段 総高0.60×0.80×0.21	
c	38	歳月人を待たず	中部中	昭和51.3.12	1 段 総高1.95×0.48×0.33	
c	39	卒業記念樹	中部中	昭和53.3	1 段 総高1.35×0.15×0.18	
c	40	卒業記念樹	中部中	昭和54.3	1 段 総高0.40×0.60×0.13	
c	41	精魂	中部中	昭和54.3	不要	
c	42	探究	中部中	昭和54.12	1 段 総高0.33×0.52×0.08	
c	43	走れ青春の広野を	中部中	昭和60.10	1 段 総高0.70×0.78×0.20	
c	44	卒業記念樹	中部中	昭和61.3	1 段 総高0.47×0.63×0.10	
c	45	啓発録	中部中	無	1 段 総高0.45×0.71×0.65	
c	46	いま自立の翼を広げて	中部中	無	1 段 総高0.66×1.37×0.40	
c	47	日時計	中部中	無	1 段 総高0.30×0.42×0.14	
c	48	まこと 真・誠・信	勝山高	平成8.3	2 段 総高1.09×1.22×0.11	
c	49	ともしび	勝山高	平成14.3	2 段 総高1.03×1.22×0.13	
c	50	(校歌碑)	旧勝山南	昭和49.3	1 段 総高0.92×1.85×0.17	
c	51	働学一如	旧勝山南	平成4.3	1 段 総高1.23×2.10×0.85	

記号	番号	名 称	学校名	設置年月日	寸 法 (m)	備 考
c	52	創立50周年記念	旧勝山南	平成4.11.1	1 段 総高1.68×2.50×0.52	
c	53	自立友愛	旧勝山南	平成7.3	1 段 総高1.05×1.62×0.66	

表26 勝山地区学校沿革

設立年	西暦	学 校 名	備 考
明治 5 年	1872	成器小学校	旧勝山三町で設立。11年三谷区・猿倉区加入。生徒数多く一時、中後・長淵・沢・芳野・立石の寺院に収容。13年校舍改築し全員収容。
明治14年	1881	立石小学校	成器小学校から独立、数年で戻る。
明治37年	1904	勝山町立裁縫学校	成器小学校尋常科に附設。39年 女子技芸学校と改称。
明治41年	1908	成器女子小学	成器小学校から分離独立。
明治41年	1908	成器男子小学	成器小学校から分離独立。
大正 7 年	1918	女子実業補習学校	成器女子尋常高等小学校に附設。
昭和 3 年	1928	勝山家政女学校	成器女子校に勝山町立成器実科補習学校附設。
昭和11年	1936	勝山町立実科高等女学校	勝山家政女学校を改称。
昭和17年	1942	勝山精華女学校	
昭和18年	1943	勝山町立高等女学校	実科高等女学校を改称。～ 23年迄。
昭和22年	1947	成器東小学校	新学制。上元禄・下元禄・芳野・片瀬が校区で成器男子校校舎で学ぶ。
昭和24年	1949	成器南小学校	成器東小学校を成器南小学校と改称
昭和22年	1947	成器西小学校	新学制。立石・郡・上袋田・下袋田・上後・下後・上長淵・下長淵・富田・沢が校区。
昭和22年	1947	勝山中学校	～ 48年迄。
昭和22年	1947	精華中学校	～ 24年迄。
昭和23年	1948	県立勝山高等学校	
昭和23年	1948	勝山精華高等学校	平成元年勝山南高校と改称。同23年大野東高校と統合し奥越明成となる。
昭和39	1964	勝山女子高等学院	勤労青年学校開校。～ 48年迄。
昭和41年	1966	勝山中部中学校	北谷中学・野向中学・村岡中学を廃し設立。42年 7 月開校式
昭和49年	1974	勝山南部中学校	勝山中学・平泉寺中学を廃し南部中学校を設立。50年校名を勝山南部中学校に変更



C-2 校歌之碑

第十三回卒業生寄贈



C-1 (十三回卒業記念)

校歌之碑

雲わく山は
さわやかに
ひろいお空に
そびえてる
みんなのしく
えがおをそろえ
こころの友と
うでくむ窓辺
成器南
われらの母校

(裏)

第十四回卒業生寄贈

昭和三十八年三月二十三日

作詞 島田慶雄

C-3 (24回卒業記念)



昭和47年度
第24回卒業生寄贈

C-4 (優秀校記念)



優秀校

茅 誠司書

ソニー理科教育授賞
学習研究社教育賞

(裏)

この栄誉を顕彰するため
タイムカプセルを蔵し
記念碑を建立する

昭和48年11月 成器南小学校成器会

昭和48年…一九七三年。

C15 (26回卒業記念)



贈 第26回卒業生
昭和50年3月

C16 希望



希望

(裏) 贈 昭和五十六年度卒業生一同

C17 琢玉成器



琢玉成器

(裏)

贈 第三十六回卒業生

昭和六十年三月

玉崎 順子 門 憲和

橋本登代子 北川 雅

長谷川 誠

百四十五名の生徒

C18 希望の道



希望の道

平成6年3月

森下 清澄

贈平成5年度第45回卒業生一同93名

平成五年…一九九三年。

C19 (築庭造成協力者碑)



造成協力者 北陸製菓

坂上 薫

森景 明

C-10 二宮尊徳像



勤儉力行

上□□□

C-11 (二宮尊徳像寄贈碑)



二宮尊徳先生幼児之像

(裏)

教育勅語渙發

四十周年記念

昭和六年五月建之

京都 島田 勁助

C-12 紀元二千六百年記念樹



紀元二千六百年記念樹

紀元二千六百年…昭和十五年（一九四〇）。

C-13 (前庭寄贈記念)



寄贈

中学校創立

十周年記念

前庭

(裏)

昭和三十二年三月



C-15 (希望の時計塔)

(裏)
希望
三月第十三回卒業生



C-14 希望



贈 第二十一回卒業生
昭和四十三年三月十九日

C-16 (勝山中二十一回卒業記念)

(裏)
希望の時計塔
1962, 3, 19
卒業の
みんな

施工
北川喜代治



C-17 (勝山中学校校歌碑)

校歌

作詞 島田慶雄
作曲 山田常三

越の山脈清らかに
生命あふるる朝ぼらけ
平和の光窓に映え
集える我等幸多し
流れ岩うつ九頭龍に
撓ゆまぬ力学びつつ
心正しく身は強く
いそしむ我等道遠し
若草もゆるこの園生

豊かに文化培いて
世界の華といざ誇り
示さんむ等業たのし

(裏)

寄贈

勝山中学校

第二十七回卒業生

昭和四十九年

三月二十日

C-18 勝山中学校記念碑



勝山中学校記念碑

昭和二十二年五月一日学制改革により勝山中学
校として開校

昭和四十九年三月三十一日市中学校統合により
閉校

卒業生一万二百五十九名
昭和四十九年三月
勝山中学校PTA

C-19 童心



童心

(生徒名略)

C-20 (校歌碑)



校歌

平泉 澄作詞

水野康孝作曲

一

春は天守の桜花

秋長山の蔦紅葉

四時の眺め美はしき

我が学び屋よ成器校

二

花咲く春は花に似て

やさしき心やしなはむ

月澄む秋は月のごと

清き理想を仰ぐべし

三

はた織るをさのゆきかひに

あわただしくも流れゆく

時を惜しみて若き日を

共に学ばむ成器校

寄贈

第卅回卒業生

昭和五十二年三月



C-22 飛翔

贈
第三十八回卒業生一同
昭和六十年三月



C-21 (第三十八回卒業記念)



C-23 (第45回卒業記念)

(裏)
贈 飛翔
勝山市立成器西小学校
平成元年度卒業生一同

平成3年度
第45回卒業生
90名 H4 3・19



C-24 ひたむき 直・向・樹

ひたむき
直・向・樹
H17年3月卒業

C-25 (昭和七年度入学生卒業記念)



寄贈 第二十三回高等科卒業生
昭和七年度■等■校入学生
海拔 一三一米
東緯 一三六度三〇分二五秒
北緯 三六度三分五〇秒

C-26 (校歌碑)



校歌

作詞 作曲 中村八大

一、自然の恵み朝焼けいっぱい
そよかぜいつしか夏を呼ぶ
身体いっぱい豊かな心
若い生命は はね上る
南部 南部中学校

二、自然の永遠に九頭竜清く
紅葉いつしか冬を呼ぶ
身体いっぱい体力あふれ
若い生命は はね上る
南部 南部中学校

三、自然の尊厳大師は映えて

白金いつしか春を呼ぶ
身体いっぱい知性を育て
若い生命は はね上る
南部 南部中学校
一九七五年三月
第一回卒業生

C-27 (南部中新築記念)



昭和50年6月
南部中学校新築記念
寄贈

宇佐美憲一

C | 28 啓発録



啓発録

去稚心

振気

立志

勉学

擇交友

昭和五十四年度卒業記念

(裏)

昭和五十五年三月十八日

？蘭書

C | 29 讃歌



讃歌

赤い夕日がアカシヤに映えて

ともに流したあの汗は

高い理想の真珠色

お、たくましい南部中

第十回卒業生一同

(裏)

昭和五十九年三月

作詞 東出隆之

野邊桂子

作曲 新町もと子

C | 30 十周年記念アカシヤ公園



十周年記念アカシヤ公園

南部中学校PTA一同

協力者 梨木 俊雄

C | 31 十周年記念



十周年記念

南部中学校PTA一同

協力者 森景 明

C-32 理想は高く心は清く



理想は高く

心は清く

(裏)

昭和六十一年十月

寄贈 江守武雄

金沢美術工芸大学学生
黒原祐子作

C-33 とぼし灯



とぼし灯

優良PTA文部大臣表彰受賞記念

平成七年三月吉日

吉田書

C-34 咲



咲

平成十三年度卒業生

C-35 (前庭の舗装記念碑)



前庭の舗装

(側面)

勝山南部中学校同窓会

平成十七年八月吉日

C-36 (校歌碑)



校歌

九頭龍の

河畔に立つて

仰ぐ雄峰白の山

世界の三座

雲巻くアルプス

あのモンブラン

ヒマラヤの世にも

名高い

あの英峰よ

ああわれらの白山

けだかい嵐気は

心にかよい

世界感覚に生きる

われら

勝山市中部中学生

(裏)

寄贈者

昭和四十八年三月

第七回卒業生一同

作詞 山本和夫

作曲 中田善直

C-37 ここに新しい伝統を



ここに新しい伝統を
創立十周年記念植樹

昭和五十年十月

勝山中部中学校PTA

C-38 歳月人を待たず



(裏)
歳月人を待たず

贈 第10回卒業生

昭和五十一年三月十二日

C-39 卒業記念樹



卒業記念樹 ぶな科しいがし

(裏)

昭和五十三年三月

第十二回卒業生

C-40 卒業記念樹



卒業記念樹 かえで科もみじ
昭和五十四年三月
第十三回卒業生

C-41 精魂



精魂

Auguste Rodin

1840 ~ 1917

(裏)

贈 第十三回卒業生

昭和五十四年三月廿日

C-42 探求



探求

(裏)

施工

久永工業所

昭和54年12月

C-43 走れ青春の広野を



走れ

青春の広野を

創立20周年記念

(裏)

昭和60年10月

勝山中部中学校PTA

C-44 卒業記念樹



卒業記念樹
もちのき科
ふくらもち
(裏)
贈 ワードプロセッサ
第20回卒業生
昭和61年3月

C-45 啓発録



啓発録
去稚心
振気
立志
勉学
沢交友
贈平成2年度卒業生

C-46 いま自立の翼を広げて



いま
自立の翼を広げて
創立30周年記念PTA

C-47 日時計



日時計
つばさのつどいの
卒業記念

(裏)

日時計の示す時刻
を表で補正すると
標準時になります。

C-48 まこと 真・誠・信



まこと
真・誠・信

(裏)

平成8年3月 卒業生一同

全日制 第48回生
定時制 第45回生

C-49 ともしび



閉校記念碑

ともしび

福井県立勝山高等学校定時制

(裏)

昭和二十三年六月、向学心に燃える
勤労青少年のための学舎として
開設されて以来、多くの優れた
人材を世に送り出し地域の発展
に寄与してきた勝山高校定時

制は時代の変化と共にその役目
を終え、ここに五十四年間の歴
史に幕を閉じる

平成十四年三月

C-50 (校歌碑)



(裏) 秀麗の山

水清き

奥越の地に

生い立ちし

名にし負う学園

精華あり

理想に充てるを

君みずや

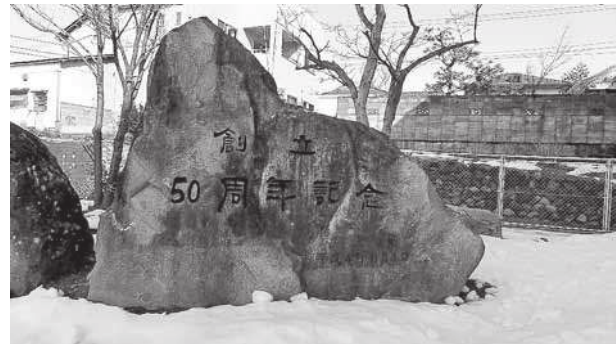
C
|
51 働学一如

作詞 土生滋穂
作曲 上杉金平
贈 第二十四回卒業生一同
昭和四十九年三月



働学一如
定時制ここに終る
平成四年三月

C
|
52 創立50周年記念



創立
50周年記念
平成4年11月1日

C
|
53 自立友愛



自立友愛
平成七年三月
贈 第六回卒業生一同
永奨書

4 節 村岡地区

表27 村岡地区

記号	番号	名 称	学 校 名	設置年月日	寸 法 (m)	備 考
d	1	(校歌碑)	村岡小学校	昭和54.3	1 段 総高0.83×1.64×0.15	
d	2	(卒業記念時計)	村岡小学校	昭和60.3	不要	
d	3	さあ翔こうぼくらの21世紀	村岡小学校	平成 (6)	1 段 総高0.62×1.11×0.86	
d	4	二宮尊徳像	村岡小学校	無	不要	
d	5	楠正成像	村岡小学校	無	不要	

表28 村岡地区学校沿革

設立年	西暦	学 校 名	場 所	備 考
明治6年	1873	村岡小学校	郡	浄土寺・暮見・寺尾(10年3区で分教場、浄土寺に)・滝波(7年分教場)・三谷・黒原・五本寺・猿倉・郡9区で設立。後に滝波区が分離、三谷・猿倉区は成器小学校に入る。再度23年三谷加入、同時に栃神谷区も加わる。41年に立志小学校・丸山小学校を合併
明治10年	1877	立志小学校	滝 波	滝波区で設立。(大正7年まで分教場)
明治11年	1878	丸山小学校	浄土寺	浄土寺区で設立。23年猿倉区加わる。(大正7年まで分教場)
昭和22年	1947	村岡小学校	郡	新学制
昭和22年	1947	村岡中学校	郡	～40年迄

d 1 (校歌碑)



校歌

作詞 青木紀元
作曲 棚池慶助

村岡の山を背に負うて
緑ににおう学びやよ
元気はつらつ呼ぶ声に
こたえて光る野辺の風
村岡の誇り村岡校
師はあたたかく友清く
父母の願の凝るところ
ああ栄えありわが母校

昭和五十四年三月
第七十回卒業生

昭和五十四年…一九七九年。

d 2 (卒業記念時計)



村岡小第76回卒
卒業生一同
昭和60年3月

d13 さあ翔こうぼくらの21世紀



さあ翔こう
ぼくらの21世紀
平成5年度第85回村岡小学校卒業生
生徒氏名略 66名の名前

平成5年度：一九九四年。

d14 二宮尊徳像



d15 楠正成像



表29 野 向 地 区

記号	番号	名 称	学 校 名	設置年月日	寸 法 (m)	備 考
e	1	記念樹	野向小学校	昭和24.3	1 段 総高0.82×0.20×0.09	
e	2	愛敬	野向小学校	昭和59.3.吉日	3 段 総高1.02×1.60×0.31	
e	3	(校歌碑)	野向小学校	平成2.3.吉日	3 段 総高1.12×1.45×0.17	
e	4	文部大臣賞受賞記念	野向小学校	平成4.10.10	1 段 総高1.15×0.12×0.09	
e	5	ふれあい	野向小学校	平成9.10.18	不要	プレート

表30 野向地区学校沿革

設立年	西暦	学 校 名	場 所	備 考
明治6年	1873	青郊小学校	竜 谷	布市・清水島（13年分離）・竜谷・竹林4区で設立。23年に芳溪小学校・幽溪小学校を併合
明治6年	1873	芳溪小学校	北野津又	横倉・北野津又2区で設立。23年青郊小学校に併合される
明治7年	1874	幽溪小学校	深 谷	杉山・中野又（2区の分教場を中野又に、後分離）・深谷・薬師神谷・牛ヶ原・聖丸6村区で設立。～23年迄、青郊小学校に併合される
明治10年	1877	横倉小学校	横 倉	芳溪小学校から分離。昭和41年野向小学校の分校に
昭和22年	1947	野向小学校	竜 谷	新学制
昭和22年	1947	野向中学校	竜 谷	～40年迄

e | 1 記念樹


(裏)
記念樹
昭和二十四年三月

野向中学校

第二回卒業生四十八名

西出義雄

昭和二十四年…一九四九年。

e | 2 愛敬



愛敬

長雲書

(裏)

校舎新築記念

昭和五十九年三月吉日

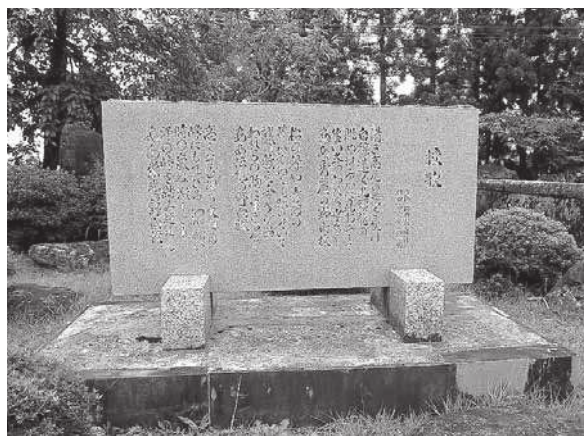
寄贈者

山本組

市川組

長雲は福井大学教授杉本長雲。

e-13 (校歌碑)



校歌

作詞 野向小学校教員

作曲 望月敬明

清き高尾の精を受け
白線遠く九頭龍の
眺めはるかに見おろして
生い立つわれら幸多し
ああ秀麗の野向校
松の緑や青郊の
華かくわしく咲きそいて
誠の教え今もなお
われらの胸に生きるなり

ああ伝統の野向校
高くそびゆる大日の
峰にもまさるわが願い
時の嵐は激しとも
汗の峠を踏み越えん
ああ栄光の野向校
(裏)

退職にあたり

母校の永遠の栄光を希って

ここに校歌碑を贈る

平成二年三月吉日

第二十四代野向小学校長

増田公輔

平成二年…一九九〇年。

e-14 文部大臣賞受賞記念



文部大臣賞受賞記念
野向町体育振興協会

社会体育優良団体表彰

平成四年十月十日

e-15 ふれあい



ふれあい

寄贈

岡田進

平成九年十月十八日